

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---------------------------|--------------|--------------------------|---|---|-----|--------|---|------|------|---------|---|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 新東京歯科技工士学校 | | 平成22年4月1日 | | 福原 達郎 | | 〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人 東京滋慶学園 | | 昭和61年2月1日 | | 中村 道雄 | | 〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医療 | 歯科技工士 専門課程 | 歯科技工士科 II部 | | 平成22年文部科学省告示 第五十三号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 歯科技工士科II部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科技工士)を養成します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成28年 3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 夜間 | 2205時間 | 875時間 | 0時間 | 1330時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 105人 | | 48人 | 0人 | 4人 | 11人 | 15人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は試験結果、出席状況、実習作品で評価する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始め:4月1日 ■夏季:8月の3週間 ■冬季:12月下旬～翌年1月の2週間 ■学年末:3月の3週間 | | | 卒業・進級 条件 | ■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の2/3以上で | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話 連絡の他に、必要に応じて、個人 面談、三者面談を実施する。 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した 研修会の開催 ・各種講習会、デモンショ-の参加 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科病院、歯科機材メー カー ■就職指導内容 学内合同就職説明会や人事採用ご担当者を招き、情報提供 に努めている。 ■卒業生数 15 人 ■就職希望者数 14 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.3 % ■その他 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報) | | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歯科技工士免許</td> <td>②</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 歯科技工士免許 | ② | 15人 | 15人 | | | | | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歯科技工士免許 | ② | 15人 | 15人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 1 名 平成28年4月1日時点において、在学者48名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者47名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラ-)との連携強化 | | | ■中退率 2.1 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度(入学前の成績優秀者への学費減免)・スカラシップ制度(在校生向け学校独自指標優秀者への学費減免) ・被災罹災者学費減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | URL:http://www.dt.ntdent.ac.jp | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成において、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための教員と連携体制をはかる委員

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|--------------|----------------------|----|
| 西澤 隆廣 | (社)東京都歯科技工士会 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 久木野 正宣 | (株)東洋歯科 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 木下 隆之 | (株)STLデザイン | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 福原 達郎 | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 三觜 雅子 | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 高平 敦 | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 今井 リカ | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 小島 三知長 | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 富野 浩子 | 新東京歯科技工士学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成29年5月30日 11:00～13:00

第2回 平成29年11月21日 11:00～13:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①歯科業界のデジタル化に対応できるよう、「デジタル歯科技工概論Ⅰ、Ⅱ」「デジタル歯科技工実習」の2科目を新しく追加。CAD/CAM機器を用いた実習授業を実施し、基本的な操作ができる歯科技工士を養成する。
- ②早期離職を防止するために、卒後2ヶ月後(6月中旬)に、同窓会に協力を得て同期会を実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------------|---|---|
| キャリアデザインⅠ | 様々な臨床現場や歯科技工士の働き方を知り将来像を明確にする。また、就職活動に必要な履歴書の書き方、職場見学のマナーを学び実践する。 | プライムテクノロジースタジオ、 |
| キャリアデザインⅡ | 卒業生講演や就職講座を通して現場で求められる歯科技工士像を明確にし、卒業後の進路決定の参考にする。 | (株)アシスト1、QLデンタルメーカー(株)、DSデンタルスタジオ(株)、(株)シケン |
| デジタル歯科技工概論Ⅰ | 各メーカーのCAD/CAMシステムを知り、最先端のデジタル歯科技工技術についての基本を学ぶ。 | (株)松風、(株)データデザイン、シロナデンタルシステムズ(株)、 |
| デジタル歯科技工概論Ⅱ | 各技工所におけるCAD/CAMシステムの活用を知り、デジタル歯科技工技術の現状について学ぶ。 | YAMAKIN(株)、Irodori、(株)中央歯科補綴研究所、 |
| デジタル歯科技工実習 | CAD/CAMなどの最先端のデジタル歯科技工技術について学ぶ。また、CAD/CAM操作を体験し、デジタル歯科技工に対応できる現場力を養う。 | (株)STLデザイン、(株)ジーシー等 |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は教員の授業内容・方法及びクラスマネジメント能力を含む指導力を向上させる為に実施する。研修の対象は専任教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた研修方法、到達目標、並びに評価指標を定めて実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

【CAD研修】

対象:専任教員(デジタル担当教員2名)

内容:歯科技工所の協力を得て、臨床的な歯科用CAD設計を実践する。

期間:6月～7月(週1回)

【デジタル歯科学会】

対象:専任教員(デジタル担当教員他2名)

内容:デジタル歯科の症例発表、最新技術の研究発表など

期間:7月30日

【スポーツ歯学学会】

対象:専任教員(スポーツ担当教員他2名)

内容:スポーツ歯科の事例発表、研究発表など

期間:6月17日、18日

②指導力の修得・向上のための研修等

【FD研修】

対象:学科長

内容:アクションラーニング(チーム学習能力の育成)研修

期間:6月7日

【国家試験対策研修会】

対象:専任教員

内容:国家試験合格に向けて、事例発表等

期間:6月24日

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

【CAD研修】

対象:専任教員

内容:デジタル担当教員による研修。授業で使用している機器を使用し、CAD/CAMでの製作手順を学ぶ。

期間:必要に応じて不定期に実施予定

②指導力の修得・向上のための研修等

【アクティブラーニング研修】

対象:全教職員(専任教員含む)

内容:アクティブラーニングを活用した授業の事例発表

期間:10月10日(実施済) ※専任教員対象には前、後期末の学部会議で事例発表予定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|-------------|
| (1)教育理念・目標 | 理念・目的・育成人材像 |
| (2)学校運営 | 学校運営 |
| (3)教育活動 | 教育活動 |
| (4)学修成果 | 学修成果 |
| (5)学生支援 | 学生支援 |
| (6)教育環境 | 教育環境 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生の受入れ募集 |
| (8)財務 | 財務 |
| (9)法令等の遵守 | 法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 社会貢献・地域貢献 |
| (11)国際交流 | 国際交流 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価結果を客観性のある視点で評価と学校運営への理解促進につなげている。意見などを学校運営改善に向け、次年度事業計画の際に反映するようにしている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|------------|--------------------------|-------|
| 鍛冶田 忠彦 | 昭和大学歯科病院 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 陸 誠 | 保護者 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年) | 保護者 |
| 阿部 隆一 | 東星学園高等学校 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年) | 高等学校 |
| 塩津 二郎 | 大田区蒲田歯科医師会 | 平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年) | 地域等委員 |
| 吉澤 和之 | 株式会社 オーリアラ | 平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年) | 企業等委員 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<http://www.dt.ntdent.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。

また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|----------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校の概要、目標及び計画 |
| (2)各学科等の教育 | 各学科等の教育 |
| (3)教職員 | 教職員 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育・実践的職業教育 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 様々な教育活動・教育環境 |
| (6)学生の生活支援 | 学生の生活支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学生納付金・修学支援 |
| (8)学校の財務 | 学校の財務 |
| (9)学校評価 | 学校評価 |
| (10)国際連携の状況 | 国際連携の状況 |
| (11)その他 | その他 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

| (歯科技工士専門課程歯科技工士学科Ⅱ部) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|-------------|---|---------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | 歯科英語 | 歯科に關係する英単語を中心とした歯科英語について学ぶ。 | 1年次後期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 英会話入門 | 基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。 | 1年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 造形美術概論 | 歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現法について学ぶ。 | 1年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 歯科技工士関係法規 | 「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。 | 3年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 歯科技工学概論 | 歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概要を学ぶ。 | 1年次前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | キャリアデザインⅠ | 様々な臨床現場や歯科技工士の働き方を知り将来像を明確にする。また、就職活動に必要な履歴書の書き方、職場見学のマナーを学び実践する。 | 2年次前期 | 18 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | キャリアデザインⅡ | 卒業生講演や就職講座を通して現場で求められる歯科技工士像を明確にし、卒業後の進路決定の参考にする。 | 3年次前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 歯科理工学基礎Ⅰ | 歯科材料全般の所要性質をはじめ、印象材、石膏、ワックス、レジンの基本的な性質、成形法について学ぶ。 | 1年次前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 歯科理工学基礎Ⅱ | 金属の特性、歯科用金属材料の性質および加工法について学ぶ。 | 1年次後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 歯科理工学基礎Ⅲ | 歯科鑄造に必要な歯科材料、器械・器具等の基本的な性質、使用法および技工操作について学ぶ。 | 2年次前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | | デジタル歯科技工概論Ⅰ | 各メーカーのCAD/CAMシステムを知り、最先端のデジタル歯科技工技術についての基本を学ぶ。 | 2年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | デジタル歯科技工概論Ⅱ | 各技工所におけるCAD/CAMシステムの活用を知り、デジタル歯科技工技術の現状について学ぶ。 | 2年次後期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|--|-----------|----|---|---|--|--|---|---|---|--|---|---|
| ○ | | 部分床義歯基礎実習Ⅰ | クラスプトレーニングを通して、サベヤーの使用 方法やクラスプの製作手順について学ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 部分床義歯基礎実習Ⅱ | パラタルバーや鑄造鉤の製作を通して、維持装置の製 作についての基本的な知識や技術について学ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 部分床義歯基礎実習Ⅲ | 部分床義歯(部分入れ歯)の人工歯排列や歯肉形成の製 作を通して、それらの製作に関する理論と技術につい て学ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 部分床義歯基礎実習Ⅳ | 加熱重合法と流し込み法による部分床義歯の製作を通 して、それらの製作に関する理論と技術について学 ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 部分床義歯基礎実習Ⅴ | 部分床義歯用の個人トレーや咬合床の製作を通して、 部分床義歯の製作に関する理論と技術について学ぶ。 | 2年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 全部床義歯基礎実習Ⅰ | 全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列法に関する理論と 技術について学ぶ。 | 2年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 全部床義歯基礎実習Ⅱ | 全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成法に関する理論と技 術について学ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 全部床義歯基礎実習Ⅲ | 全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作 に関する理論と技術について学ぶ。 | 1年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 有床義歯応用実習Ⅰ | 金属床義歯の製作を通して、製作手順について学ぶ。 | 3年次 前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 有床義歯応用実習Ⅱ | 金属床義歯の製作を通して、それらの製作に関する理 論と技術について学ぶ。 | 3年次 前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 有床義歯総合実習 | 全部床義歯の人工歯排列～歯肉形成の反復トレーニ ングを行い、全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の 合格を目指す。 | 3年次 後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復技工学基礎 | 虫歯などで削られた患者さんの歯に合った歯科技工物 の要件、製作順序、インレー、全部金属冠等について 学ぶ。 | 1年次 前期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 歯冠修復技工学応用 | 歯科技工物の製作順序、硬質レジン前装冠について学 ぶ。また、歯を喪失した場合の歯冠修復物であるブリ ッジ等について学ぶ。 | 2年次 前期 | 46 | 3 | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復技工学総合Ⅰ | 陶材(ポーセレン)の取り扱い方、陶材焼付金属冠等 について学ぶ。また、歯冠修復技工学について総合的 に復習する。 | 3年次 前期 | 22 | 1 | ○ | | | | | ○ | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------------|---|-------|----|---|---|--|--|---|---|---|---|
| ○ | | 歯冠修復技工学総合Ⅱ | 模擬試験の解説講義を通して、歯冠修復技工学を総合的に復習する。 | 3年次後期 | 12 | 0 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| ○ | | スポーツ歯学概論 | スポーツや運動が顎・顔面・口腔領域において及ぼす影響について学び、外傷、障害を予防するためのマウスガードについて学ぶ。 | 2年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 臨床歯科技工学 | 臨床現場で必要とされる知識、技術について総合的に学ぶ。 | 3年次前期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復基礎実習Ⅰ | 上顎第一大臼歯のワックスアップの手順と基本的な技術について学ぶ。 | 1年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復基礎実習Ⅱ | 全部金属冠のスプルーイングから研磨について学ぶ。また、圧接法によるインレーのワックスアップについて学ぶ。 | 1年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復基礎実習Ⅲ | 盛り上げ法によるインレーの製作や臨症的な分割復位式模型の製作を通して、間接法についての理解を深め基本的な技術について学ぶ。 | 1年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復応用実習Ⅰ | 臨床植模型を用いて様々な模型製作法やメタルコアの製作法について学ぶ。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復応用実習Ⅱ | 実力確認試験(分割復位式模型の製作)や全部金属冠の製作を通して実践力を養う。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復応用実習Ⅲ | ブリッジの製作を通して多数歯のワックスアップの考え方やポンティックの基底面形態について学ぶ。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復応用実習Ⅳ | ブリッジの製作を通して連結部の考え方や鑲付け法に関する理論と技術について学ぶ。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | セラミック加工基礎実習Ⅰ | 陶材焼付金属冠の製作を通して、窓開けの手順やメタルフレームの製作について学ぶ。 | 3年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | セラミック加工基礎実習Ⅱ | 陶材焼付金属冠の製作を通して、ポーセレンの取り扱い方について学ぶ。 | 3年次前期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復総合実習 | 全部金属冠の製作過程であるワックスアップの反復トレーニングを行い、全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の合格を目指す。 | 3年次後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 矯正歯科技工学総論 | 矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的な手技について学ぶ。 | 2年次後期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 矯正歯科技工学各論 | 各種矯正装置の役割や製作順序について学び、歯や顎骨をどのように移動させるかを理解する。 | 2年次後期 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|-------|----|---|---|--|---|---|---|---|
| ○ | | 小児歯科技工学総論 | 小児の顎・顔面の成長発育の特徴を理解し、小児の歯・歯列の成長発育について学ぶ。 | 1年次後期 | 15 | 1 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 小児歯科技工学各論 | 小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について学ぶ。 | 1年次後期 | 15 | 1 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯型彫刻基礎Ⅲ | 下顎右側第一大臼歯の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順について学び、繰り返し実践する。 | 1年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯型彫刻基礎Ⅳ | 上顎左側前歯の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順について学び繰り返し実践する。 | 1年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 小児歯科技工実習 | クラウンループ等の製作を通して、小児歯科技工に必要な基本的な製作技術と小児歯科治療の要点を学ぶ。 | 1年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯型彫刻応用Ⅰ | 見本模型を見なくても歯の形態的特徴を表現できるようにデッサン・歯型彫刻の技術を高める。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯冠修復応用実習Ⅴ | ブリッジやレンジ前装冠の製作を通して、窓開けの手順や硬質レジンの取扱い方について学ぶ。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯科技工実習応用Ⅰ | 臨床複模型を使用した実力確認試験(全部金属冠の製作)で実践力、臨床力を養う。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯科技工実習応用Ⅱ | 全部金属冠のワックスアップの反復トレーニングを通して基礎技術力を向上させる。 | 2年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯科技工実習応用Ⅲ | 全国歯科技工士教育協議会実技評価試験用の模型製作や実習トレーニングを行う。 | 2年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯型彫刻応用Ⅱ | 見本模型を見なくても歯の形態的特徴を表現できるようにデッサン・歯型彫刻の技術を高め、スピードアップを目指す。 | 2年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 矯正歯科技工実習 | 矯正装置の製作を通して、矯正技工に必要な基本的な製作技術と矯正治療の流れを学ぶ。 | 2年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | セラミック加工応用実習 | マージンポーセレン及び内部ステインテクニックで、審美的な陶材焼付金属冠を製作する。 | 3年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 歯科技工実習総合Ⅰ | 実習トレーニングで使用する模型の準備をする。また、実技評価試験、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。 | 3年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 課題研究実習Ⅰ | 今までに習得した知識・技術を結集して卒業課題研究作品を製作し、自主的に調べ計画して実行する力を養う。 | 3年次前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 課題研究実習Ⅱ | 卒業課題研究作品やレポートを完成させることにより歯科技工士としての専門性を磨き、各自の得意分野を伸ばす。 | 3年次後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------|---|-------|----|---|---|--|--|---|---|--|--|---|---|--|
| ○ | | 歯型彫刻総合 | 国家試験(実地試験)の合格を目指して、歯型彫刻トレーニングを繰り返し行う。 | 3年次後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | 歯科技工実習総合Ⅱ | 実習トレーニングで使用する石膏棒等の準備をする。また、実技評価試験、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。 | 3年次後期 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | 歯科技工実習総合Ⅲ | 実習トレーニングで使用する石膏棒等の準備をする。また、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。 | 3年次後期 | 40 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | 総合歯科技工学Ⅰ | 歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、主要科目(有床・修復・理工等)の模擬試験及び解説講義を行い、国家試験合格を目指す。 | 2年次後期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | 総合歯科技工学Ⅱ | 歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、顎口腔・矯正・小児等の模擬試験及び解説講義を行い、国家試験合格を目指す。 | 3年次前期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | 総合歯科技工学Ⅲ | 模擬試験及び解説講義を行い、歯科技工士として必要な総合的な基礎力・応用力を習得し統一模擬試験の合格を目指す。 | 3年次後期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | 総合歯科技工学Ⅳ | 解説講義や科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、模擬試験、卒業見込認定試験(出願判定試験)を行う。 | 3年次後期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | 総合歯科技工学Ⅴ | 解説講義や科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、模擬試験、卒業認定試験を行う。 | 3年次後期 | 30 | 2 | ○ | | | | ○ | | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|------------|---|-----------|---------------|---|---|--|--|---|--|---|--|
| ○ | | 総合歯科技工学VI | 科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、卒業認定試験を行う。 | 3年次 後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| ○ | | 総合歯科技工学VII | 模擬試験及び解説講義を行い、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験の合格を目指す。 | 3年次 後期 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | | 82 科目 | 2205時間(100単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---------------------|--|-----------|-------|
| 学年ごとに必須単位数を修得し進級する。 | | 1 学年の学期区分 | 前期・後期 |
| | | 1 学期の授業期間 | 26週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。